

# — SPACIA Report 「まちの魅力」 —

まちはたくさんの魅力であふれています。  
新しく生まれた魅力、何気ない景色の中であふれている魅力にも  
日々意識を向け、発信していきたいと思っています。

魅力其の一 「水辺の魅力」

## レゴランド&クルーズ名古屋

日高 史帆/大河原 章介



### 進化する名古屋港

かつて名古屋のものづくりを支えた中川運河および名古屋港が新しく生まれ変わろうとしている。

昨年四月、金城ふ頭に日本初、世界で八番目の「レゴランド」がオープンし、リニア鉄道館とともに子どもたちが楽しめる一大観光エリアとなっている。また、ガーデンふ頭を含めたみなとエリアと、昨年十月にまちびらきを迎えた都心のささしまライブ24をつなぐ水上交通「クルーズ名古屋」の定期運航も始まった。

さらに、港明地区にはスマートシティをコンセプトとした「みなとアクルス」が計画され、東海エリア初の高層ビルが建設予定であるなど、みなとエリアで名古屋の魅力を高める施設が増えつつある。

ここでは、その中でもレゴランドとクルーズ名古屋を取り上げて紹介したい。

### レゴランドで遊ぶ

私はレゴランドの年間パスポートを購入し、これまでに数回訪問した。LEGOLAND JAPANと大きく表示されたカラフルなブロックで作られた入場ゲートをくぐると、エントランスには巨大なドラゴンのミニメンツが飾られ、子どもたちが記念撮影をしている。中心エリアにある、日本各地の建物を精巧に再現したミ



レゴで再現された梅田スカイビル



ささしまライブ24のグローバルゲート



中川運河沿いの倉庫群が運河らしい景観をつくり出している

ニランドは、目玉の一つである。特に、姫路城と梅田スカイビルは再現度が高く、私のお気に入りである。また、展望タワーから見下ろせば、来場者やレゴランド背後の名港トリトンと合さり、全てが模型のように見えて面白い。アトラクションは子ども限定で乗ることができないものもあるが、レゴブロックで作った写真映えするカラフルなフォトスポット、夏季に来場者同士が水をかけあうミズアソビエリアなどは、大人も十分に楽しめた。

アクセスは名古屋駅からあおなみ線のノンストップ列車で十七分、車利用には高速道路IC直結で、駐車場も五千台収容で十分な余裕がある。また、水上交通のクルーズ名古屋も合わせると、利便性は十分高い。

### レゴランドが名古屋を変える

名古屋人は地元志向が強く、お値打ち感を重視するという。レゴランドで

も年間パスポートに関する様々なキャンペーンやホームタウン1DAYパスポートの販売など、リピーターの取り込みや地元優遇策が目立つ。

今年四月には直営ホテルや水族館「シーライフ名古屋」も開業することから、国内外からの来場者を呼び込むことが期待できる。レゴランドが閉鎖的な名古屋を変える起爆剤となるよう地域を挙げて盛り上げてほしい。

(日高)

### 水上交通クルーズ名古屋の誕生

次に、昨年十月八日から運航を開始したクルーズ名古屋を紹介したい。

クルーズ名古屋は中川運河の再生と名古屋港のにぎわい創出を図る目的で都心とみなとエリアを往復する、土日祝日に定期運航をする水上交通である。ささしまライブ24の乗船場からスタートした場合、キャナルリゾート、ガーデンふ頭、ブルーボネット

を経由し、終点の金城ふ頭まで我々を運んでくれる。途中の乗船場を経由しない直通便もある。名古屋の新たなランドマークの一つとなったささしまライブ24には魅力的な複合施設「グローバルゲート」などがオープンした上、金城ふ頭には既存の観光施設に加えて、先述したようにレゴランドという新たなレジャー施設がオープンしたばかりである。にぎわい創出においてこれらの施設とクルーズ名古屋との相乗効果が期待できるだろう。

### クルーズ名古屋を体験

クルーズ名古屋に実際乗船してみると、様々な魅力が満載である。ささしまライブ24から船が発射すると、穏やかな水辺に佇むアオサギや、趣きのある倉庫群などを見ながら、中川運河をまです航行することとなる。のんびり進む船の中のどかな風景を楽しむといった感じである。甲板に出て風を感じるのも気持ち良い。また、船は運河に架かるいくつもの橋の下を通り過ぎるが、これらの橋は倉庫群とともに、運河らしい景観をつくり出している。そしてしばらく進むと、中川運河エリアのハイライトといえる中川口通船門に到着する。ここは中川運河と名古屋港の異なる水位を調節する場所、ミニパナマ運河と呼ばれたりもする。船に乗ったままの状態でも水位が上がったり下がったりするのが見え

て面白い。通船門を抜けると目の前に名古屋港が開けてくる。名古屋港水族館を横目に船は進み、ガーデンふ頭でわずかの間停泊。再度出港してしばらく航行すると今度は名港トリトンの姿が見えてくる。だんだんと眼前に迫ってくる巨大な大橋の姿は壮大である。大橋の主塔はテレビ塔よりも高いと説明すれば納得していただけだろうか。最後、大橋をくぐって少し進むとゴール（金城ふ頭）である。

中川運河は、今後も市や名古屋港管理組合によってにぎわいづくりが着実に進められていく計画である。我々市民も関心を持って、名古屋が「水辺にぎやかで楽しい」まちになっていくよう見守っていきたい。

(大河原)



クルーズ名古屋の色鮮やかなデザインの船体